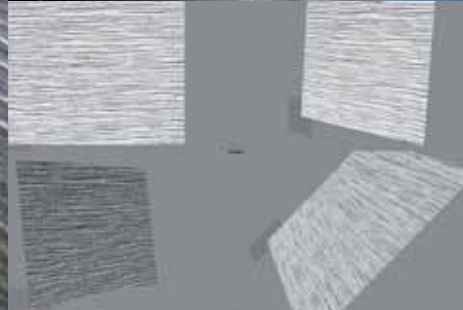
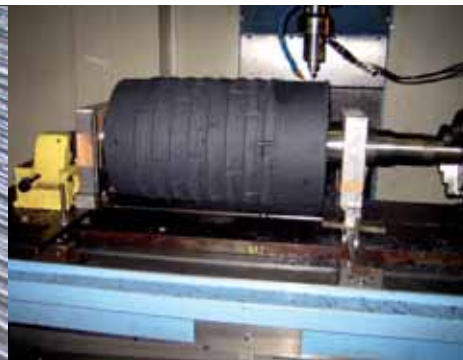


直彫り精密金型製作が 生み出す ハイクオリティな 金型の数々



株式会社三木製作所

天然素材の複雑なデザインも 金型として再現

天然素材等の複雑なデザインを忠実に再現する直彫り精密金型製作で、存在感を放つ三木製作所。建材用金型を軸に、様々な製品を扱ってきた。

従来は、樹脂を使って石等の天然素材そのものから形を写し取り、作成するという方法が主流だった。しかし同社のコア技術である「3次元微細加工」は、少し方法が異なる。3次元測定器を使用し、天然素材の微細な凹凸を3Dデジタルデータに置き換えて(リバースエンジニアリング)、コンピューターの中でデザインモデルを製作。それを独自技術で編集し、工業製品として使用しやすいデザインに仕上げる。こうしてできあがったデータを用いて、素材に直彫り加工を施しているのだ。

用いる素材は、金属や鉄、アルミ等多岐にわたるが、もともと主流なのは、特殊な耐摩耗性樹脂。鉄の3倍以上のスピードで加工することが可能で、できあがったプレス型・ロールは鉄と同等の耐久性・耐磨耗性があり、量産も可能だ。

この技術を用いて扱うものは様々。窯業系の外壁材に模様をつける、樹脂製プレス金型・樹脂製模様ロール。壁紙・和紙等を加工するためのエンボスロール。竹垣パネル等の微細な模様が必要な製品を作るためのポラス成型金型。ほかにも、内装用の壁・天井・床材用のプレス型。ブランドショップのデザインプレスマッシュを作るためのロールプレス型等、多くの金型を製造している。

新しい分野への 積極的なチャレンジで 業界を常にリードする

同社の技術を知った各種大手メーカーから、商品開発への協力を要請されることもしばしば。新製品のパーツ作りの研究等、委託研究を行うことも多い。変わったところでは、超精密立体地図や、建築デザイナーやアーテクトからの依頼、工業大学等からの銅鐸金型製作依頼もあったという。

「いろいろな分野にチャレンジするのが励みでもあり、おもしろみでもあります。最近、製紙関係のエンボスロールにも力を入れているんですよ」と、三木繁親社長。何につけても「前例がない」と言われる状況になることが多いが、新しいことに取り組み、チャレンジすることに躊躇は一切ない。

その姿勢は本業以外のところでも発揮され、異業種交流グループによるロボカップ参加にも力を注いでいる。具体的には、自律型ヒューマノイドロボットによるサッカー競技に参戦して

おり、ドイツのブレーメンやアメリカ・アトランタで開催された世界大会にも出場。同社の3階には、ロボット開発ベンチャー「はじめ研究所」を招聘。西淀川のものづくり企業で構成される異業種交流グループ「西淀川経営改善研究会」と、大学(千葉工業大学、ダルムシュタット工科大学等)との産学連携でプロジェクトとして取り組み、「メイドイン西淀川」のアピールにも力を注いでいる。

株式会社三木製作所

Company Profile

住所 / 〒555-0043
大阪府大阪市西淀川区大野1-7-28
創業 / 昭和30年11月
設立 / 昭和44年11月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 4名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6473-3414
FAX / 06-6473-0602



三木繁親さん
代表取締役

主な事業内容

デザインモデル・樹脂製金型・金型の製造・販売、3次元計測・データ編集・CG製作の受託、ロールプレス成型機・成型型、エンボスロール、ポラス成型型の製造・販売等

<http://www.mikiss.co.jp/>